

二〇二五年度

第四回 入学試験問題

国語（五十分）（全九ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていない、印刷がはっきりしないなどの不備があったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点など記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。



東京純心女子中学校

一 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

(1) 周囲からヒハンを受ける。

(2) スイドウカンの修理をする。

(3) 台風でお寺のボセキがたおれてしまった。

(4) コナ物と言えはお好み焼きだ。

(5) 彼の役目は首相のケイゴだ。

二 次の文の意味が通るように並びかえたときに、使わない言葉を一つ選

び、記号で答えなさい。

(1) 絵を描くことに ①夢中に ②彼は ③車も

④なってしまう

(2) カーテンのすき間から ④さしこんで来た ⑤うっとりさせる

⑥朝の光が ⑦まぶしいほどで

(3) 好きな ①犬と ②私の ③家族に ④猫です ⑤動物は

(4) 雪が ①寒さで ②作ります ③降るので ④雪だるまを

⑥冬には

(5) 食べたいです ①だんだん ②とても ③今日は

④アイスを ⑤暑いので

三 次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

急に立ち止まってポケットやハンドバッグから手帳を取り出し、なにやら書き込んでいるひとを街なかでよく見かける。筆記用具を手にして歩きまわっていたのではなく、ふいになにかを思いついたので忘れないうちに書き留めておこうといった風情で、①そういうひとがいるとつい目で追って、心底うらやましく思う。貴重な想念が逃げていかないうちに文字に転換しようとするその努力に対してではない。私の場合、かりになにかを書き留めても、あとで詳細を思い出そうとして成功したためしはないし、運よく記憶の底から引き出せたところで、それが役に立ったという経験もない。感心するのは、手帳はここ、ペンはこちら、収納場所を把握している彼らの周到ぶりや、移動中にそれらをすばやく取り出しうる機敏さのほうだ。

②正直にいうと、ほんとうはそんなふうにはメモを取ってみたいのである。あとからなにかを思い出そうと試みる手がかりは、たとえ謎めいたものであれ残しておいたほうが得ではないかとさもしく考えて、道ばたでもすぐに書けるメモ帳を携行していた時期もあるのだけれど、書きつけておかねばという唯一無二のタイピングで道を尋ねられたり、手帳を取り出そうとしてハンカチや小銭を落したり、あるはずのその手帳が鞆の奥深くに隠れていくら探しても発見できなかったり、☐しているあいだに将来作品の一部になったかもしれない想念はあとかたもなく消えている。

上着のポケットに入れると型が崩れるので、手帳はたいいてい鞆に入れてい

るのだが、そうでないときはジーンズのお尻のほうに差している。当然、私はそれを落とす。バスや電車に乗れば、たちまちなくしてしまう。一個人情報などは怖くて残せないし、好き嫌いの傾向がわかるような物品の名も秘密の呪文も書き込めない。このあいだ、とある駅で開いたまま落ちていた小さなリングノートを窓口に届けたのだが、拾い上げたとき、一方の頁にオレンジ色のペンで「くれあらしる」とひらがなが躍っていて、その単語ゼンたいが二重丸で囲まれていた。言葉の響きがおもしろくて控えたのか、ニギビの多いひとなのか、曰「だれかに買ってきてくれと頼まれたのか、妄想はどんなひろがり、駅員さんに手渡したときには頭のなかで「くれあらしる」でいっぱいになっていた。

手帳は、落とすためにある。重要事項は、だからぜったい記さないほうがいい。書くための道具に大切な言葉をひとつとも書けないなんて途方もない矛盾だが、その矛盾を解決するには、落とすことを前提にしつつ、落としたことに気づくようなメモ帳を探すしかないだろう。立ち止まってなにかを書いている方々が気になるのは、③そのような難問を彼らがいかに乗り越えているのかを知りたいがためである。この際、どんなペンで、どんな文字を綴っているのかは問題にしない。知りたいのは、メモ帳、手帳の形態である。落としたとしても、手応えもしくは尻応えのあるくらい固くて丈夫、雨にも負けず風にも負けず、立ったままの筆記で生まれる下手くそな文字にも負けず、しかも見目かたちがよくて安価なメモ帳があったら……。

先日、住宅街の更地で、カーキとグレイのあいだのつなぎを着たおじさ

んが測量器を立てて、細長い手帳になにやら書き込んでいるところに出くわした。艶のある固そうな緑色の表紙で、しかも薄い。手のなかでとても安定しているような雰囲気だ。思い切つて声をかけると、そんなこと尋ねられたのははじめてだとひどく感心した様子で、手に取らせてくれる。LEVEL BOOKと金文字の打たれた、コクヨのセーラー番。すばらしい。じつに軽い。縦横のバランスもよく、糸綴じだから開き方も柔らかい。会社の事務所でまとめて仕入れているもんだから、自分で買ったことはないけどね、とおじさんは言い、やちよう、って言うんだよ、ふつうは、と説明を加えた。野っぱらの野に、帳面の帳で、野帳。はあ、野帳ですか、と私はその言葉の響きにYしてしまった。

④礼を述べたその足で、駅前の文具店に立ち寄って尋ねてみると、あたりまえのように在庫があった。正式には⑤測量野帳。つまり、フィールドノートの意味である。あとで調べたら、江戸時代の検地で使った手控えも野帳と呼ばれていたらしい。基本は横野のノートで、左頁には縦の野線があって、測量記号を書き込めるようになっていた。値段も安い。よし、これにしよう、これを落としてやろう、と手にした瞬間、妙な既視感にとらわれた。多少のちがいはあれ、そのノートはかつて、手製の出席簿をつくるために大学の講師控室で配布されていた手帳によく似ていたのだ。なるほど、教場というのは、水準測量でもあり検地でもあるフィールドワークだったのか。それならそれでいい。頭のなかを再測量し、言葉のレベルを測るために、私は測量野帳を、店頭にあるだけ買い占めることにした。

問三——線①「そういうひと」とありますが、どのようなひとですか。適切

なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

\*1 さもしく……いやしく。

\*2 携行……身につけて持って行くこと。

\*3 唯一無二のタイミングで……ちょうどよいタイミングで。

\*4 更地……手入れをしていない土地。空地。

\*5 罫線……ノートなどに引いてある線。

\*6 既視感……一度も見たことがないのに、すでにどこかで見たことがあるように感じられること。

問一 ☐X ☐Y に入る言葉として適切なものを、次のア～エの中から一

つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

☐X

ア にこにこ イ ぐんぐん ウ おろおろ エ うきうき

☐Y

ア すっかり イ ゆっくり ウ たつぷり エ うっとり

問二 ☐一 ☐ロ ☐目 に入る言葉として適切なものを、次のア～エの中

から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ しかも ウ それとも エ だから

ア 歩いているときに物思いにふけることができるひと。

イ 歩いているときに道の途中とちゅうで立ち止まる余裕よゆうのあるひと。

ウ 手ぬ抜きなく手帳を用意し、すぐに取り出すことができるひと。

エ 行かなければならない場所にまっすぐに向かっているひと。

問四——線②「正直にいうと、ほんとはそんなふう」にメモを取ってみた

のである」とありますが、この時の筆者の気持ちとして適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア とりあえず手帳を鞆の中に入れておき、必要とあらば手帳を他の人に見せたい。

イ どこに手帳があるのか把握しておき、何か書こうと思うと同時に、素早く手帳を取り出しメモを取りたい。

ウ 以前見かけた人のように地面を測量するために、手帳を持っておきたい。

エ どんなときにも気を緩ゆるめずに、貴重な想念を逃のがさずに書きつけて、文字にしておきたい。

問五——線③「そのような難問」とありますが、ここでの「難問」とはどの

ようなことを指しますか。本文中の言葉を使って、解答欄らんに合うよう

に二十五字以内で答えなさい。

【二十五字以内】という難問。

問六——線④「礼を述べたその足で、駅前の文具店に立ち寄って尋ねてみる」とありますが、この時の筆者の気持ちとして適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理想の手帳を見つけたかもしれないという期待感と、はやくその手帳を買いたいと焦る<sup>あせ</sup>気持ち。

イ 話がかみ合わない人と話していらいらした気持ちと、すぐに手帳を買わなければいけないという焦りが入り混じった気持ち。

ウ おじさんの説明に対して不満に思う気持ちと、教えてくれたことに感謝する気持ち。

エ 自分と話してくれたおじさんへの感謝の気持ちと、文具店の人とも話さなければならぬという使命感の入り混じった気持ち。

問七——線⑤「測量野帳」とありますが、筆者は何のために「測量野帳」を使おうとしているのですか。本文中から二十字程度で抜き出しなさい。

問八 本文の説明として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 手帳の中に大切な事柄<sup>がら</sup>を書きつけることにあるが、こがれていた筆者は、

最終的に自分の理想の手帳である測量野帳を見つけた。

イ いくつかの条件に合うような手帳を探していた筆者は、その条件にある測量野帳を見つけて、買うことができた。

ウ すべてのものを測量したいと思っている筆者は、まず手始めに測量野帳を手に入れた。

エ たまたま拾った手帳に書かれた言葉の意味が何なのか知りたかった筆者は、それを書いた人物の気持ちも知りたいと思った。

問九 文章全体を読んだとき、この文章から読み取れる筆者の特徴として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一つの言葉から妄想が付きつきひろがる。

イ 言葉の響きに魅力を感じるなど、言葉へのこだわりが強い。

ウ ときにユーモアのある言い回しをすることができる。

エ まじめで、計画的に行動しなければ気が済<sup>す</sup>まない。

#### 四 次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

通常の科学の研究では、ばらばらでしか(あるいは部分的にしか)手に入らない事実を組み合わせ、足りない部分はさまざまに推理して、現実生じていると思われる現象の説明や謎の解明を行っています。それに加え、現実生じている事柄の解釈や説明だけでなく、将来どうなるかについて予測しなければなりません。予言力が求められるわけです。一、現象(結果)を前にしてその理由(原因)を探り、その理由の説明とともに、将来にどのようなことが予言できるかを提示し、理由と予言が実際に正しいと認められなければならないのです。その間の思考の流れを①コントロールしているのが、②「科学的な考え方」なのです。

実は、この「科学的な考え方」は科学の研究だけでなく、私たちの日常生活におけるさまざまな事柄にも適用できることであり、現に、みんなそれなりに科学的に考えています。実際に、私たちは意識しているかどうかは別として、何か事があるたびに、

① なぜそうなったのだろうかと考え、

② 筋道が立った推論(推理・推測)によって立てた論理を客観的にたどり、

③ もっとも合理的と思われる考えを最終的な結論とする、

という思考過程を採っているのは事実ですから。人は誰でも、そのような思考法を自然のうちに身につけているのです。

ロ、誰もがそのような「科学的な考え方」をするなら、みんな似たよう

な結論に到達するはずなのに、ぜんぜん違った結論になってしまうことがたびたびあります。なぜでしょうか？ それは各個人の思考の中の、①から③の間のどこかで「科学的」ではなくなっていて、本来あるべき筋道から外れているからです。そこで、どんな場合に筋道から外れて「科学的」でなくなるかを考え、「科学的」であるためにはいかなる思考が大事であるかを探ることにしましょう。

#### 個人の感情を交えないこと

「科学的」思考とは、誰にでも共通する前提と事実を組み合わせて、そこで何事が起こったかを推測し、考え得る範囲を絞り込んでいく作業のことですが、最初に言っておきたいことは、その過程に個人の感情を交えてはいけないということです。

私たちが物事を考えるときには、①の段階で、つい「こうあって欲しい」とか、「こうあるはず」とか、「こうあるべきだ」とかの、個人的な願いや意見や私情を交えてくなります。しかし、このような個人の意見や願望や私情が入り込むと、論点が発散して焦点がぼけ、何を問題にしていたかがわからなくなってしまう。というのは、各個人の勝手な見解が幅を利かせるため、各人の主張がバラバラに提示され、まとまりがなくなってしまうためです。その結果、何が事実であり、何が個人的で勝手な意見なのかの区別がつかなくなってしまう。特に、②の客観的な事実を積み上げながら

筋道をたどる段階では、このような主観的な意見を交えるのは混乱を招くだけになることは明らかでしょう。

あるいは、**③**の何らかの結論が見えてきても、自分の「気に食わないから」とか、「嫌いだから」とか、「主義に合わないから」というような、個人的感情で結論を受け入れないのも「科学的」とは言えません。その客観的な理由を明確に示さず、ただ自分のわがままを言っているに過ぎないからです。結論に反対して受け入れられない場合には、「事実<sup>じじつ</sup>に反するから」とか、「論理が飛躍<sup>ひやく</sup>しているから」とか、「筋道に混乱があるから」と理由をあげて、具体的に事実や論理や筋道について納得できない点を明示すべきです。というより、明示できねばならないのです。ここには、一切私情が入る余地はありません。

時々、個人の勝手な意見や主張を押しつけようとする行動が目立つ人に  
③お目にかかります。いかにも熱心に自分の熱い思いを述べ立てているように見えますが、単に混乱を持ち込むだけで、真の解決を曖昧<sup>あいまい</sup>にしてしまう人がいるので要注意です。本人はひたすら自己の主張を④「正しく」述べているつもりなのですが、それが身勝手な振る舞いであることに気がついていないことが多くあります。客観的な事実と個人の主観的な願望をきちんと区別<sup>くべつ</sup>することが「科学的思考」の第一歩なのです。

原発が事故を起こしたとき、テレビに出た専門家の多くは事故の詳細がまだわからないのに、「事故はたいしたことはない」と言い続けました。まさに、⑤自らの願望を優先させて、⑥事実を見ようとしなかったのです。そ

のうちに大事故であることが徐々にわかってくると、この事故は「想定外」の津波が原因だから、どうしようもなかったのだというふうに言い始めました。責任が問われてはかなわないとの気持ちから、事故の真相を客観的に調査する前に、⑦自己本位の結論を出して原因を曖昧にしようとしたのです。このような態度は決して「科学的」とは言えないことは明らかです。現実に起こった事実を正面から受け止めて、私情を交えずに証拠を積み上げて、客観的に結論を導く態度が何ら見られなかったからです。

おそらく、原発の大事故という結果に圧倒されて慌ててしまい、順を追って思考し、どこに問題があったかを明示すべき科学者としての道を踏み外し、自己本位な主張をしてしまったのでしょう。事故が起こることをまったく考えたことがなく、日頃「科学的」思考を鍛えていなかったことを物語っています。「科学的」であるためには、私情を交えず、スジが通っていて公正であり、道理や理屈にかなっていて合理的でなければならず、それは日常的思考で鍛えておかねばならないのです。

(中略)

そして、科学には「絶対」はなく、現在の真実を超えるような、より一般的な真実がありうるという姿勢を忘れてはなりません。「科学的」に考えようとする者はいかなる事柄に対しても「疑い深く」なければなりません。また、科学の一面の真実に固執してはなりません。より多面的な側面か

らの新たな真実が見つかるかもしれないからです。といって、不可知論（真  
実には到達できない、真実は認識できない、真実は実在しないとの立場）に  
陥（おちい）つてはならないことは言うまでもないことです。すぐに真実に到達でき  
なくても、常に仮説を実証するという手順を積み重ねながら、あくまで真  
実を追求することを諦（あきら）めてはならないからです。

もつとも、提起（ていぎ）されている問題には、⑧科学に問うことはできても科学で  
答えることができない問題もたくさんあります。これを「トランスサイエン  
ス問題」と言い、何らかの答えを得ようとすれば、科学以外の論理を持ち込  
まねばならないのです。そんな問題もあることを知っておくべきでしょう。  
何事であれ、科学によって明快な答えが得られると思うことは傲慢（ごうまん）である  
かもしれないからです。

（池内了『なぜ科学を学ぶのか』より。なお、本文には省略等があります）

\*1 私情……個人的な感情。

\*2 固執……自分の意見を主張してゆずらないこと。

問一 ☐・☐に入る言葉として適切なものを、次のア～オの中から一  
つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なぜなら イ ところが ウ さて エ つまり オ しかも

問二——線①「コントロール」の意味として適切なものを、次のア～エの中  
から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他のものをまねして何かをつくること。  
イ 主張をわかりやすく言い表すこと。  
ウ ちようどよい具合に調整すること。  
エ 手を加えてより良いものをつくること。

問三——線②「科学的な考え方」とありますが、ここでいう「科学的な考  
え方」の説明として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号  
で答えなさい。

ア 「科学的な考え方」は、日常生活における事柄とは切り離して考える  
必要がある。

イ 「科学的な考え方」は自然に身につけるものだが、「科学的な考え方」  
からずれることがある。

ウ 「科学的な考え方」を身につけた人は、同じ結論に到達することはない  
と考えられる。

エ 「科学的な考え方」は、客観的な推論を必要とするため、ここぞという  
時にとる思考過程であるといえる。

問四 ☐で囲った部分の説明として適切なものを、次のア～エの中から  
一つ選び、記号で答えなさい。

ア 前述した科学的思考過程の各段階に個人の感情が入り込むことで、どのような事態におちいる可能性があるかを指摘している。

イ 個人的な感情の例を種類ごとに説明し、各思考過程の場面ととるべき対応を具体的に例示している。

ウ 原則の考え方を示した後で、例外的に個人的な感情をさしはさむ場合にはどのような手順が必要なのか補足している。

エ 個人の感情を大切にしながら全体の意見をまとめる際の注意点を、それぞれの思考過程ごとに説明している。

問五 — 線③「お目にかかります」について、あとの各問に答えなさい。

(1) 「お目にかかる」の説明として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「注意する」の慣用的な表現である。

イ 「会う」に敬意を加えた表現である。

ウ 「気付く」に強調を加えた表現である。

エ 「泣く」を遠回しにいった表現である。

(2) ここでの使われ方の説明として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 迷惑な行為めいわく こういをする人々に、皮肉をこめて使われている。

イ 真実を追求し続ける人々に、尊敬をこめて使われている。

ウ 事態に無関心な人々に、ことの重要性を伝えるために使われている。

エ 事実を知ったときの、驚きおどろの大きさを示すために使われている。

問六 — 線④「正しく」とありますが、なぜ「が使われているのですか。四十五字程度で説明しなさい。

問七 ここでの——線⑤「自らの願望」・⑥「事実」・⑦「自己本位の結論」は、原発事故に関してどのようなことをさしますか。本文中の言葉を使って、それぞれ答えなさい。

問八 次の対話は、——線⑧「科学に問うことはできても科学で答えることができない問題」もたくさんあります」について、生徒と先生が話している場面です。これを読んで、あとの各問に答えなさい。

生徒 「科学に問うことはできても科学で答えることができない問題」って、わかったようなわからないような内容ですね。

先生 筆者は、本文より後の部分で、いくつかの例を挙げています。たとえば、「建築物の地震に対する安全基準をどこにおくか。基準が甘すぎれば意味がないし、厳しすぎれば費用がかかりすぎてしまう。どこに線を引くかは、科学・技術のレベルで決まるのではなく、1で決まる。」などといった例がありましたよ。

生徒 なるほど。私は数学や理科が好きで勉強しているのですが、数字上

の確率や、科学上の理論しか学ばないと、様々な問題に対して、答えを導けないかもしれない、ということですね。

先生　そうですね。科学を学ぶときに私たちが持つべきなのは、科学で答えられない問題もあるという 2 な姿勢ですね。勉強も、短絡的たんらくに必要な・必要を判断してしまうと、問題にぶつかったとき、答えを見つけないためのしなやかな感性が失われてしまう気がします。

生徒　私も、筆者が言うように、時間がかかっても真実を追求する姿勢を意識して、学校生活を送っていききたいです。

(1) 1 にあてはまる言葉として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 信用できる専門家の意見      イ 客観的な調査  
ウ 社会的・経済的条件      エ 真実は存在しないという立場

(2) 2 にあてはまる言葉として適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学的      イ 有意義ゆういぎ      ウ 謙虚けんきょ      エ 傲慢